

様式第 1 0

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
熊本県葦北郡	津奈木町	平成 27 年度～令和元年度	平成 27 年度～令和元年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成25 年度)	目 標 (令和2 年度) A	実 績 (令和2 年度) B	実績 / 目標
排出量	事業系 総排出量	t	t	%
	1 事業所当たりの排出量	t	t	%
	生活系 総排出量	t	t	%
	1 事業所当たりの排出量	80kg/人	78kg/人	90kg/人 115. 4%
	合 計 事業系生活系総排出量合計	t	t	%
再生利用量	直接資源化量	t	t	%
	総資源化量	t	t	%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh
最終処分量	埋立最終処分量	35t	32t	34t 106. 3%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成25 年度)	目 標 (令和2 年度) A	実 績 (令和2 年度) B	実績 / 目標
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	71. 4%	80. 9%	77. 7% 96. 0%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

【ごみ処理】

○1人当たりの排出量

1人当たりの排出量の主な要因としては、令和2年度においてコロナ禍で家庭で過ごすことが多かったのが影響したと思われ家庭から出るごみが増加傾向にあったのが一つの要因と考えられる。また、令和2年7月豪雨災害で発生した災害ごみが本来災害廃棄物として、排出されるところ一部の家庭ごみについて一般廃棄物として排出されたことも一つの要因と思われる。

○埋立最終処分量

ここ2、3年の処分量は、平均で30tと目標を達成していたが、令和2年度においては、令和2年7月豪雨災害で発生した災害ごみが本来災害廃棄物として処分されるところ、災害廃棄物仮置場閉鎖後に一般廃棄物として排出されたことが一つの要因と考えられる。

○合併処理浄化槽等

合併処理浄化槽普及率は、目標数値を約3%下回ったが、令和2年度において令和2年7月豪雨災害の影響により汲取り便槽、単独浄化槽からの転換事業等が進まなかったのが主な要因と考えられる。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度7年度まで

【ごみ処理】

○1人当たりの排出量

生活系ごみについて、ゴミ出しのルール、分別表、収集計画等を作成し住民への啓発活動の充実を図り、家庭ごみ排出の減量に努める。また、リサイクルごみについても住民への周知を行い、リサイクルによる一般ごみの減量化に努める。

○埋立最終処分量

大規模災害が起きない限り、埋立ごみは減少傾向にあると考えるが、今後も住民へのごみの減量化、資源化の啓発に努めていく。

○合併処理浄化槽等

住民へ合併処理浄化槽設置補助金の周知を行い、汲取り便槽、単独浄化槽からの転換及び設置の促進に努め浄化槽普及率の向上に努める。

(都道府県知事の所見)

【ごみ処理】

今後、本改善計画書に挙げられた施策を確実に実施するとともに、更なる評価分析を行った上で目標達成に向けた努力が期待されます。県として、今後も津奈木町の施策を積極的に支援します。

【生活排水処理】

引き続き生活排水処理施設を計画的に整備していただくとともに、補助事業等を活用して単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換促進をお願いします。